

西のきずな

小平西地区・地域ネットワーク ニュースNo.17

2016年3月12日（土）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL：042-346-5639（白梅学園大学企画調整室）

住所：〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

小平は関係づくりの宝庫

関谷榮子（家族・地域支援学科 教授）

小平市との関係は長い。前職場に勤務していた時代に難病のスモン病の方々の和歌山で建てた支援施設「曙光園」を見学した際には地域移行の企画を伺った。また「あさやけ」は障害者の方の作業所運動の草分けであった。

平成6年から教員として白梅学園にお世話になり、「わかばの会」の皆様から認知症の家族の方々から学んだ。学生とともに介護の工夫々をお聞きし、感銘を受けた。施設利用者のご家族にとってかけがえのない大切な方であると認識し介護職としての責任を痛感した。また当事者の思いを共感できるよう感性を磨くこと。そのためには日常的に知り合い学びあう場が必要であると親交を深めた。

西ネットの活動に参加して白梅幼稚園や白梅高校の存在意義を知った。「娘や孫が通っていた。」「奥様が白梅高校の卒業生だ」など、白梅の関係者が地域には大勢おられる。教職員が知らない白梅学園をよく知って好意的に見て下さる応援団に出会えた。

小平市民の自治意識にも敬服した。市民活動が活発でたくさんのイベントがある。また各々の施設が地域に向けて門戸を開放しようとしている。

「黎明会」には市民が自由に利用できる食堂や介護ショップもある。「小平自由遊びの会」は自然の中でダイナミックな遊びを子どもたちに体験させている。福島の子どもの呼び保養させるキャンプも続けている。継続は力である。そして縁の下の力持ちの世話人、民生委員の芳井さん、東小川橋自治会の早田さんの行動力には深く感謝申し上げます。

さてこれからの「西ネット」の目指すことは何か。

ヒューマニズム精神を実践する個人や組織の方々にもっと白梅学園を活用して頂きたい。人材養成をしてコミュニティカフェを応援したい。教員や在校生、卒業生などの人材を活用したい。コミュニティタクシーも走らせたい。FM局を開きたいとの申し出もある。鷹の台商店街がシャッター通りになりつつあり、「買い物難民」を出す恐れがある。新たなサービスを起こすことは出来ないか。西ネットにはお金は無いが、多くの人の知恵と行動力がある。

私はこのたび定年退職を迎えます。これまでのご指導ご支援に感謝し、今後の皆様のますますのご発展をお祈りします。ありがとうございました。

西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？



小平南西地区にコミュタクを走らせるには

—小平西ネット懇談会で報告して—

塚本博子（走らせる会事務局）

第20回小平西地区・地域ネットワーク懇談会にお話をさせて戴きありがとうございます。ぶるべー号（小平市コミュニティタクシー）が1日も早くこの地域に走ってほしいと願い、運動を広げる「走らせる会」です。小平地域を行政区分で4分割し、A・C・D地域には公共交通である虹バスやコミタクが走っています。今日お集まりいただいたネットの皆様は、乗ったことも見たこともない方々とわかりました。この地域だけ走っていないのですから当然です。

①何故なのでしょう？

市の回答＝運動の盛り上がっている所優先…ということで後回しにされている。

②要求がないのでしょうか？

新しい住宅が増えているが高齢化が進み、足となる交通機関がなく、通院、買い物、公共施設の利用に最寄駅に歩くには遠く、雨の日など困難な状況が増しているという声が多く寄せられている。

③どうすれば良いのでしょうか？

市民運動は18年以前から続けられ、市議会へ請

願25000名をもって全会派の賛成で採択され、全地域実施が可能という背景から、B地域の運動を盛り上げ、加速させるために、昨年8月体制を組み直し、「走らせる会」を発足し市の協力を得て強化させることにしました。

●運動の今後

1. 自治会・商店会・学校・企業など、様々な団体に署名や市の説明会開催に取り組んでもらうよう要請する。

2. 市の概念である「市民が支える公共交通」を目指し、小平市との協議（ルート、停留所など検討）の場である“考える会”の発足を1日も早く実現の為に交渉を含め運動する。

3. 沢山の人の利用（市の目標1日70人）を視野に入れ運動する中で便利さを考えて行きたい。

年末には、署名800筆以上を市長宛に提出し、更に会員を増やし、地域の皆様の声を届け、運行まで大勢で取り組んでまいります、よろしくご協力お願いします。

「ぶるべー号」乗車レポート

岩井洋（第4ブロック）

1月5日、小平駅の北口で「ぶるべー号（大沼ルート）」を体験乗車してきました。乗るさいに「どこで降りますか？」と聞かれたので、「ぐるっと一周してください」と答えて着席、しばらく窓の外を眺めてました。昭和病院で乗ってきたご婦人が、いきなり、「さっきの話の続きなんですけど・・・」と語りだしたのはびっくりしました。ほどなくしてのみこめた事情は、この人は「ぶるべー号」にのって病院に来て、診療を受けて、終わって帰る時にまた「ぶるべー号」に乗ったということ。そしたら運転手が同じ人だったので、その人を相手に「いきの時の話の続き」をし始めた、ということでした。そのことに気付いた時に、なんともいえない、ほのぼのとした気持ちになりました。

一周回って元の場所で降りようという時に、「こりゃいかん！寝過ぎた！」とぼやいたお

爺さんがいました。すかさず、「ああ！ごめんごめん！」と運転手さんが応じたのにも吹き出しました。まるで掛け合い漫才です。運転手さんにとっては、「眠ってる乗客を目的地で起こすこと」も仕事のうちなんです。だから、乗車のさいに「どこで降りますか？」と聞いたのです。本当に、住民の足として定着しているのですね。





後日、市の公共交通課を訪れた時にこの話をしたら、担当の職員さんが嬉しそうな顔をしたのが印象的でした。「利用者の皆さんも、運転手さんと顔なじみなんですよ」と。我々の「鷹の台地区」でも、日々こういった光景が見られるといいなあ、と思います。みなさんも、ぜひ一度、「ぶるべー号」に乗ってみてください。「調査です。鷹の台にも『ぶるべー号』を走らせたいんで」というと、運転手さんはいろんな話をしてくれます。どこの停留所での乗降が多いか？客層はどんな人たちか？などなど。きっと、いろんな発見がありますよ。

あんず楽団

—みんなでつくる音楽祭 in 小平—

青木紗由香（あんず楽団）

2015年12月5日土曜日、「みんなでつくる音楽祭in小平」が開催されました。私達は「あんず楽団」という名前で参加させていただきました。

「あんず楽団」は、地域の誰かが集まれる場所：コミュニティカフェを作りたいという活動から、人々の輪が広がってできた集まりです。子育て中のママから地域の皆さんまで、幅広い世代が交流できる活動を行っています。その中で、みんなで一つになって何かをやりたいねと話していた時に、「みんなでつくる音楽祭in 小平」が目にとまりました。音楽好きのメンバーが中心となり、コミュニティカフェのメンバーだけでなく、子育て中のママや地域の音楽好きの方達にも声をかけ参加してみようという事になりました。

子どもも大人もみんなが知っている曲を歌おう、楽器を取り入れてみよう、マラカスと譜面カバーを手づくりしよう、せっかく子どもたちが参加するのだから、子どもたちに曲紹介してもらおう、など、色々な案をお互い出しました。その結果、曲は「さんぽ」「星に願いを」「しあわせならてをたたこう」「勇気100%」が選ばれました。マラカスはヤクルト容器を2つくっつけ、中には野火止用水のドングリを入れ、カラーテープなどで装飾しました。譜面カバーは、参加する子どもたちに「星に願いを」をテーマにして、好きに装飾してもらいました。

少ない練習時間、作業時間ではありましたが、皆さんの都合の良い練習日に参加していた

だき、準備を進めていきました。「星に願いを」は楽器演奏のみだったので、楽器チームで練習日以外にも集まり、練習を重ねました。それぞれの努力の積み重ねにより「あんず楽団」が形となり、本番を迎える事ができました。

風邪が流行っていた時期だったこともあり、体調を崩して本番に参加できなかった方も何人かいて残念でしたが、その人たちの思いも手づくり品に込められていましたので、参加者全員が緊張しながらも皆で一つになれたように思います。何より、参加者はもちろん、会場のお客様やスタッフの方々までとても楽しく和やかな空気になっていたのがとても印象的でした。

この会を通して、地域の方々との仲も深まったような気がします。



自治会主催「もちつき大会」

岩井 洋 （鷹の台団地小平・国分寺自治会）

1月24日、日曜のお昼、上水新町3丁目にある「さんかく公園」で、鷹の台団地自治会主催の「もちつき大会」が催されました。50人の老若男女が集い、計5kgのモチ米を蒸して木の臼でついて氣勢を上げ、みんなで食して大いに笑いました。前夜に「大雪が降る」との予報もあったのですが、天候に恵まれ事故もなく、大成功のうちに終わりました。

「子どもが小学生のころ青少対でやった」「むかし田舎でやってた。田舎には娯楽がないから、どこの家にも物置に臼はあったよ。カビてたけど」そんな会話が交わされました。

これまでの4年にわたる自治会主催イベントの中でも、今回が最高の盛り上がりでした。何よりも、世代間交流ができたことがよかったです。これが、ロックコンサートや韓流ドラマじゃこうはいかない。やはり日本古来の伝統の

力ですね。

この企画を思いついてから実施まで3年かかりました。公園内では火を焚くな、衛生面に気をつける・・・などなど、いろいろと制約があってなかなか動きませんでした。それらを役員のみなさんでひとつずつ解決していった上での実施です。なお臼と杵は、小平市庁舎5階の地域学習支援課からお借りしました。

バックヤードで汗を流していたのは、公園付近にお住いの役員の方。彼は十数年の在米勤務時代、モチつき機を駆使しては、地域の人たちに日本の伝統文化を伝えていたそうです。人種も国籍も関係なく、みな日本伝統のお餅に大いに舌鼓をうっていたとか。

反省会では、早速、「毎年の恒例行事にしよう！」との怪気炎が上がりました（笑）



多摩交流センターの交流事業で、さつきの活動を紹介

細江卓朗 （ほっとスペースさつき）

（公財）東京都市町村自治調査会多摩交流センター・東京多摩タウン誌会共催の交流事業「市民ネットワーク活動のこれまでとこれから」が国分寺Lホールで1月16日開催されました。多摩地区のNPOや市民団体、学生のボランティア約30団体60名が集まりました。

第1部のシンポジウムは、松本祐一多摩大学総合研究所副所長・教授から「市民団体とイノベーション」と題した基調講演。人をひきつける事業とは、未完成である。動いている。オープンアクセスである。共有できる物語がある。シンプルである。遊びがある。の6条件と示されました。その後さつきを含む6団体の活動紹介がありました。

第2部は交流会で9テーブルに分かれ、今後の活動について意見交換。若い学生の力を取り

込むことが重要との報告が多かった。

最後のまとめで松本教授は、「変化の一番のポイントは、何をしないかを決めること」との言葉で締めくくられました。有意義な時を過ごしました。



AKVSによる地域のつながり講座について

渡辺穂積（ほっとスペースさつき）

平成27年12月の中旬にAKVS（あすぴあ・公民館・ボランティアセンター・市民協働）が立ち上がり、社会福祉協議会主催の「地域のつながりづくり実践講座」が開催されました。その講座の中に既に地域でコミュニティ活動を実践している箇所を、受講された方々自身が自由に選択しそこで体験活動を行うというプログラムが組まれていました。そこで、今回は講座を受講された中から3名の方に「ほっとスペースさつき」を指名していただきました。

体験に来られた方は男性1名女性2名でしたが、さつきにおいては、先ず「さつきとは、何

をどの様にやっているのかを知ってもらうために簡単なオリエンテーション」から入り、それからエプロンを付けてサロン活動に入ってもらいました。体験活動に来た方たちは自らが志し・目的をもって講座を受け、体験を希望されただけあって、積極的に動かれ、サロンの中ではスタッフや利用者とも手弁当で楽しい昼食をとるなどすっかり溶け込み皆さん大喜びでした。また、さつきでの利用者（訪問者）は不特定の方々（高齢者・障がい者・児童等）が入れ替わり来訪されるので、活動日数も2～3日と複数日で体験されたのが大変良かったと思います。

子どもたちの「目の輝き」に魅せられて

杉浦 廣道（「分かった会」講師）

『分かった会』の活動に参加して感じていることを述べてみます。

私の拙い説明とか解説であったとしても生徒さんが理解できたであろうと思われる瞬間の“目の輝き”に遭遇すると私は非常に嬉しくなります。また生徒さん達が日々成長している姿を目にすることも大変楽しい思いがします。この種の感情はビジネスの世界で活動していた時には殆ど感じたことの無い“感情”です。この“嬉しさ”を励みに時間の許す限り参加しています。たまたま市の広報の募集の案内を目にしたのがきっかけです。

子どもは社会全体の貴重な財産であると思います。たまたま親の経済状況が良好でないからということで教育を受ける機会が不平等であったり、失われたりすることは残念なことです。このような状況は次世代社会の健全性を著しく損なうこととなります。可能な限り社会全体で支援することが望ましいと思います。それらの支援の一端を担うのは現役を引退した我々の大切な役割ではないかと思えます。とは言うものの私は家庭教師の経験があるだけで教師の経験もなく教員の免許もありません。どれほど役に立っているかは分かりませんが、私の情熱を生徒さん達に少しでも伝えたいと思っています。

「社会には必ず皆さんの“応援団”がいます。」というメッセージが伝わればこんな嬉しいことはありません。私自身の学生時代の親の経済状況は可成り厳しいものでしたが、幸いに

も『日本育英会』の奨学金を受けることができ、アルバイトもしながら教育を受けることができました。社会の恩恵であると心から感謝しています。この『分かった会』の活動に参加することで“応援団”から受けた恩恵に少しでもお返しができるとすれば望外の喜びです。



「分かった会」の今…（奈良 勝行）

昨年12月24日に開講100回を数え、今年2月20日現在、生徒数は小学5・6年生が8人、中学生が18人の計26人（講師は15人）。3月10日に「修了式」を公民館で行い、7人を送り出します。それぞれ都・私立高校に進学します。4月以降、この子どもたちが“お兄ちゃん・お姉ちゃん”として教室に来て“後輩”の相手をしてくれれば・・・と願っています。

餅つきで思ったことーホットスペースきよかに参加してー

島村俊佑（家族・地域支援学科1年）

12月26日、ホットスペースきよかで餅つきが行われた。この日はよく晴れて、餅つきに最適の天気だった。私は、白梅学園大学西方ゼミの学生とともに、合計4人で参加した。

きよかに着いてから、早速餅つきに向けての用意を開始。それぞれの役割分担を決めて配置につき、餅つきが始まった。私は主に餅をつく役を担当。時間が立つに連れて参加する人が増え、とても和やかな雰囲気になっていった。また、私と同じ年代が加わったことにより、世代の違いならではの雰囲気が出て、会話も弾んでいた。3回目の臼からは子どもたちも参加してくれた。恥ずかしそうにしていた子もいたし、やり方が分からなくて困った顔をしていた子もいたが、周りの大人の助けもあり楽しく餅をつくことができた。

途中、ついた餅と豚汁、大学芋をいただいた。つきたてのお餅はとても弾力があり、噛む

たびにお餅の甘味がましてきてとてもおいしかった。食べている間、他の方からもおいしいとの声が聞こえてきた。

餅をつく目的を共有したことにより、多くの年代との交流をすることができた。高齢者から子どもまで幅広い年齢層が同じ目的を持ち、一緒に行うことで世代を超えて交流をすることができたと思う。



「相手の気持ちを汲んで『きく』ということ」

さつき第7回学習会

福井正徳（ほっとスペースさつき）

大切、相手にアドバイスをするのではなく、相手を理解すること ②聴き手が問題を解決しようとしな、解決は本人がしてくれる ③評価しない ⇒相手が向き合うのは聴き手ではなく自分自身であるということ、話すという行為を通して話し手の悩みが明確になり気づきとなること、聴き手の聴く姿勢、座る位置、服装などの聴く「形」も大切であること、オウム返し、Open Question, 言い換えなどの傾聴の技法など、多くのことを学ぶことができたと思います。

お話の後、3人ずつ一組になって、交互に聴き手／話し手となって「近頃の若者について」というテーマで簡単なワークが行なわれましたが、あらためて「きく」ことの難しさを感じる事となりました。



ほっとスペースさつき第7回学習会は、1月23日（土）13:20～16:00、白梅学園大学（113講義室）で八王子市の古刹、浄福寺の副住職でもある廣澤満之白梅学園大学准教授による「相手の気持ちを汲んで『きく』ということ」と題する講演が行われました。

企画のきっかけは、居場所・ほっとスペースさつきには高齢者や障がい者も含めいろいろな方が見えますが、来場者の方々に愉しく時間を過ごしていただくためにはスタッフがまず話の良い聴き手になることが大事でありそのスキルをみがこうということでした。授業の一環として出席した学生11名を含め計44名が出席。

傾聴とは？傾聴すると何が起こるのか？といった傾聴の基本的な意味合いをはじめ、傾聴は、①「言う」のではなく「言わないこと」が



白梅学園大学に期待すること

小山靖夫（あさやけ風の作業所 生活支援員）

社会福祉法人ときわ会あさやけ風の作業所は、東大和市駅から徒歩10分、こもれびの足湯の隣にある障害を持つ人たちが通う生活介護施設です。生活介護施設ですが、労働活動を基本におき、冊子・会報・年賀状づくりなどのパソコン作業やスコーンやパウンドケーキなどの製造と販売、喫茶“CAZE CAFÉ”の営業、下請け作業をおこなっています。

敷地の裏口は、玉川上水緑道に面しており上水を散歩している人が、作業所の2階の“CAZE CAFÉ”に足を運んだりもしています。

白梅学園大学とつながりは、市内の障害者団体の集まりで大学祭に販売に行ったことがあるぐらいで、社会福祉士の実習生を受け入れるまではほとんどありませんでした。実習を通して学生に期待することは、大学時代にいろいろな経験をしてほしいということです。大学で学ぶことは授業だけではありません。いろいろなことを体験して、その経験からいろいろなことを学んでいてもらいたいと思います。実習を含め多くの体験をすることで大学の授業や本で学

んだことが実感としてとらえられることも多いと思います。また、そこでの出来事で考えさせられることも多いと思います。

当事業所は、父母や職員、関係者だけではなく、多くの地域の人に支えられています。開設から10年以上がたち、喫茶“CAZE CAFÉ”や作業班の手伝い等々には地域の人がボランティアとして入るなど、地域の中に浸透をしてきたと思います。しかし、残念ながらこの輪の中に若い人の姿はほとんどありません。当法人の他の事業所もかつては旅行やバザー等の行事には多くの学生の姿がありましたが現在はほとんどありません。自分の事業所にボランティアとして関わってほしいという狭い意味だけでなく、学生には地域の活動に積極的に参加してもらいたいと思うし、大学にはそのような学生をバックアップできるようになってもらいたいと思います。

白梅学園大学の学生が地域のいろいろな場面で活躍しているようになることを大学には期待しています。

小平の歴史⑥

●小平の抱え屋敷と江戸大火

入村者は西から北の方を中心に入ってきているのです。もう一つ伝えておきたいのは、お百姓が入ってきて開拓していくのですが、武士が抱え屋敷を持っているのです。これもとっても面白いことです。今まで近隣の市町村ではこのことが分かっていませんでした。小川村には古文書がきちんと残っていたからわかったんですが、なんと40人を超える武士が小川に屋敷地を持っていたんです。そこに武士が住んでいたわけではありません。

なぜ抱え屋敷という屋敷地を持っていたのか。明暦2年に開発が始まったことになっていますが、歴史を紐解くと明暦の大火というのが出てきます。江戸の四分の三も焼けてしまって、江戸城の天守閣さえ焼けてしまった。それが直前にあった。大名屋敷も当然焼け出されて、行き場に困った経験を持っている。その直後に開かれた村ですから、そういうところに土地を確保したいという武士がいても不思議ではない。もしまた江戸が焼けて、行くところがなくなったら、小平に避難しようという意味での被災地の歴史というのは、小川村が開かれた当初から期待されていた場所だったのだということが、この震災を経験してみますと見えてきます。

抱え屋敷の存在

蛭田廣一氏（元小平市市史編纂課長）

●関東大震災の疎開先としての小平

実は関東大震災の時も東京の人たちは大きな震災を直接経験しています。そのとき、はじめて東京で疎開が起こるのです。疎開は何も第二次世界大戦のときにおこった事象ではないんですね。関東大震災で焼け出されて、行き場を失った人たちが、縁故疎開という形で親戚や伝手を頼って、小平に何百人も疎開してきて暮らしています。小平は支援をした経験を何十年も前の大震災の時に経験しております。

ただし小平は大きな被災を受けていません。なぜか、まさに大きな高層住宅もなければ、江戸のように密集した地域もありません。おそらくこれだけ離れてポツンポツンと建っていた家からすると、火災も起こらなかったんだと思います。そういう点で半壊の家屋と道路の桁が外れたのがいくつかという記録が残っていないので、大きな被害は受けていない。ですから関東大震災クラスの大きな地震があっても、直接ものが壊れるとか、家が傾いて潰れるというほどの被害は小平の場合はなかったということが経験上記録として残っているのであります。そういったものがまさに歴史の事実であるし、そういったものを引き継いで小平の歴史というものがあられるわけです。（文責：瀧口優）

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

①ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00~16:00

問合わせ: 渡辺 穂積

TEL: 042-344-7412

②ほっとスペースきよか

毎週月曜 10:00 ~15:30

問合わせ: 石川 貞子

TEL:090-7732-2089

③アットホームはぎ

毎月7, 17, 27日: 14:00~17:00

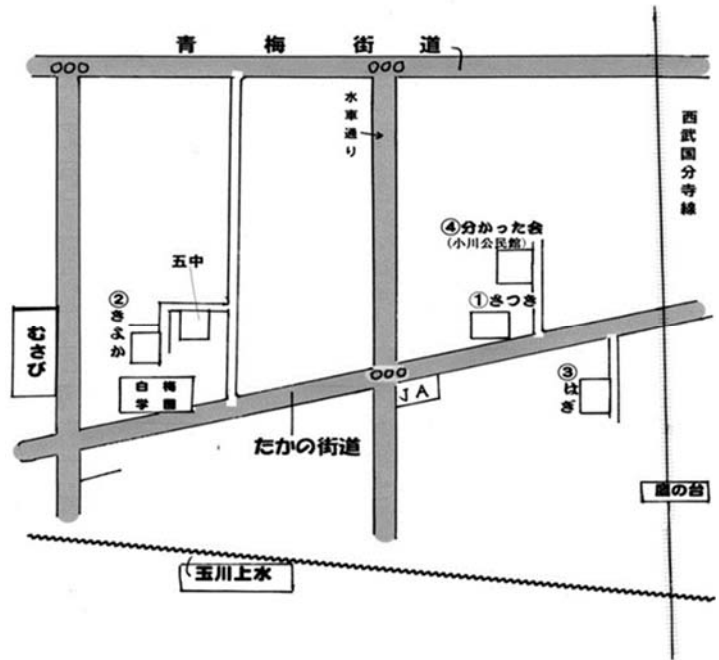
問合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738

④「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)

問合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)

TEL:090-4435-4306



イベントの予定

3月27日(日) 「白梅子育て広場」

10周年記念式典

白梅学園大学 I 13教室にて

4月29・30日、5月1日

「ふくしまキッズプロジェクトinこだいら」

連絡先: 細江 (TEL:090-6033-5524)

足立 (TEL: 090-1771-7431)

西ネットの今後の予定

懇談会 : 3/12(土)

2016年度 6月7日(火) 9月27日(火)

12月20日(火) 3月10日(木)

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記: 小平西地区地域ネットワークが誕生してから早くも4年、ニュース「西のきずな」も17号になりました。今回からニュースの印刷・折り込み・袋詰めなどを、社会福祉法人なごみ福祉会クラブハウスはばたきのメンバーさんが担ってくださることになりました。身近な人とのつながりを大切にして、これからの1年を歩んで行きたいと思います。今後とも宜しくお願いいたします(M)

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦	瀧口 優・
2	足立隆子・早田 満 芳井正彦	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子 久保田進・穂積健児 杉浦博道	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良・長谷川・吉村